

一般社団法人日本歯科医学会連合主催  
医療職連携委員会フォーラム2024  
プログラム・抄録集

「歯科衛生士のバージョンアップ」  
～ 認定歯科衛生士の資格を活かす2 ～

オンデマンド配信

令和 7 (2025) 年1月15日(水) ～2月28日(金)

事務局 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12 第三東郷パークビル 4F

一般社団法人 日本歯科医学会連合

Fax: 03-3263-7761 E-mail: jimukyoku@nsigr.or.jp



一般社団法人日本歯科医学会連合主催  
医療職連携委員会フォーラム2024「歯科衛生士のバージョンアップ」  
～ 認定歯科衛生士の資格を活かす2～

オンデマンド配信：令和7(2025)年1月15日(水)～2月28日(金)

【プログラム】

医療職連携委員会フォーラム2024概要説明  
医療職連携委員会 委員長 山本松男  
挨拶  
日本歯科医学会連合理事長 住友雅人

講演

1. 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（摂食嚥下リハビリテーション）について  
渡邊理沙 桶狭間病院 藤田こころケアセンター
2. 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（在宅療養指導・口腔機能管理）について  
金子信子 宝塚医療大学 保健医療学部口腔保健学科
3. 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（歯科医療安全管理）について  
中岡美由紀 広島大学病院
4. 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（老年歯科分野（老年歯科医学会））について  
藤原千尋 国立病院機構福山医療センター
5. 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（口腔保健管理（日本口腔衛生学会））について  
野口有紀 静岡県立大学短期大学部歯科衛生学科

討論 ディスカッション

(司会進行) 医療職連携委員会 委員長 山本松男  
医療職連携委員会 副委員長 吉田直美  
歯科衛生士学術活動支援ワーキンググループ委員 吉田幸恵

## 渡邊 理沙（わたなべりさ）

桶狭間病院 藤田こころケアセンター  
公益社団法人 愛知県歯科衛生士会



### 抄録

歯科衛生士を目指した当時、すでに少子高齢化は社会問題として提起されており、超高齢社会へと進展した。私自身は歯科衛生士養成校の講義や実習をきっかけに摂食嚥下リハビリテーションに興味を持ち、超高齢社会の需要に応えられる歯科衛生士を目指すことを目的に、研鑽しながら臨床スキルを習得できる環境を就職先に選択した。結果的に摂食嚥下リハビリテーションに限定せず、急性期医療に関連する全身疾患の病態や治療・薬剤などの知識を得て経験を積み、専門性と特化した知識を指導的に発信する根拠となるものが必要だと考え、認定歯科衛生士を取得するに至った。

急性期医療に関わった後、在宅医療、現在の精神科病院と臨床現場は一定年数ごとにより応用的な対応を求められる環境で経験を積んでいる。認定取得後、業務の幅を拡大し、それによって対象者への効果に繋がっていることや、就業先の評価に反映されることは認定取得のメリットとして体感している。

今回は認定歯科衛生士の日常臨床と人材育成について情報提供を行う。そのうえで認定歯科衛生士のやりがいや、今後の認定歯科衛生士の役割について共有したいと考えている。

### 略歴

#### 学歴

2006年 専門学校 宮城高等歯科衛生士学院 卒業

2021年 東北大学大学院歯学研究科 口腔システム補綴学分野 修士課程修了

#### 職歴

2006年 藤田保健衛生大学病院（現 藤田医科大学病院）歯科口腔外科 常勤

2017年 前田デンタルクリニック 非常勤

2019年～ 医療法人静心会 桶狭間病院藤田こころケアセンター 歯科 常勤

2019年～ 朝日大学歯学部口腔病態医学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野 非常勤助教

一般社団法人 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 評議員・認定士

公益社団法人 日本歯科衛生士会 認定分野A摂食嚥下リハビリテーション

公益社団法人 日本歯科衛生士会 認定分野B老年歯科認定歯科衛生士

公益社団法人 日本歯科衛生士会 認定分野C研修指導者・臨床実地指導者

公益社団法人 愛知県歯科衛生士会 副会長

公益社団法人 日本歯科衛生士会 理事

## 著書・執筆

摂食嚥下リハビリテーション第3版/才藤栄一,植田耕一郎監修：医歯薬出版2016

認知症の人への歯科治療ガイドライン/一般社団法人日本老年歯科医学会編集：医歯薬出版2019(コンセンサスサポートメンバー)

歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版/公益社団法人日本歯科衛生士会監修：医歯薬出版2019

歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学 /全国歯科衛生士教育協議会監修：医歯薬出版 2023

歯科衛生士のための咽頭喀痰吸引マニュアル/谷口裕重, 渡邊理沙編著：医歯薬出版2023

## 金子 信子（かねこのぶこ）

宝塚医療大学 保健医療学部口腔保健学科



### 抄録

「在宅療養指導・口腔機能管理」は、日本歯科衛生士会の認定制度が開始した2008年度から設けられ、すでに16年になる。認定が開始した当初の名称は、「在宅療養指導（口腔機能管理）」としていたが、社会背景や診療報酬改定をふまえて2016年に現在の名称となった。これを期に、認定者の拡充を図るため、それまで年1回の認定研修のみだったが、各都道府県の歯科衛生士会協力のもと、2016～2018年の3年間は認定研修を年3～6回程度実施した。さらに、カリキュラムには「施設体験実習」を加えて、認定研修で得た知識を実際に取り組むことで、知識のみならず技能の研鑽も含めるようにした。このような経緯によって、現在は732名の認定取得者が各地の地域で活躍している。さらに地域で活躍するだけでなく、認定研修の内容を自らより良いものにするため、本コースの委員に参加することもある。認定取得者が在宅療養の現場に求められるスキルを見極めて、自ら認定研修内容を構築し、プログラムを見直している。見直された認定研修内容は2～3年毎に大きく内容を変え、認定委員会や理事会で承認されてから実施し、常に社会ニーズに適するようにしてきた。今回のフォーラムでは、「在宅療養指導・口腔機能管理」の認定の特徴と取得後の活躍について紹介したい。

### 略歴

#### 学歴

1992年 湘南短期大学（現、神奈川歯科大学短期大学部）歯科衛生学科卒

#### 経歴

1992年 湘南短期大学（現、神奈川歯科大学短期大学部）助手

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院歯科 勤務

1994年 関東歯科衛生士専門学校（現、厚木総合専門学校 歯科衛生学科） 勤務

2001年 複数の歯科診療所 非常勤勤務

2009年 認定歯科衛生士として複数勤務

2012年 医療法人おひさま会 勤務

2018年 なにわ歯科衛生専門学校所属 平成野田クリニック・歯科 出向

2024年 宝塚医療大学保健医療学部口腔保健学科 講師

医療法人おひさま会 在宅医療おひさまクリニック

### 専門

在宅医療学、高齢者歯科学、摂食嚥下障害学

## 所属学会

日本歯科衛生学会，日本老年歯科医学会，日本老年医学会，日本摂食嚥下リハビリテーション学会，日本歯科衛生教育学会 等

## 認定資格

日本歯科衛生士会 認定歯科衛生士 在宅療養指導・口腔機能管理  
日本老年歯科医学会 認定歯科衛生士  
日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士  
嚥下トレーナーアドバンス歯科衛生士  
終末期ケア認定士

日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（歯科医療安全管理）について

## 中岡 美由紀（なかおか みゆき）

広島大学病院

日本歯科衛生士会認定歯科衛生士委員会 委員



### 抄録

日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（認定分野A：歯科医療安全管理）は令和3年度に新設され、今年で4年目を迎える新しい分野の認定歯科衛生士セミナーとなります。新しい認定分野ではありますが、医療安全と感染対策は医療の根幹をなす分野であり、事象を未然に防ぐための知識や技術、起こった後の適切な対応・対策など、歯科医療に携わる誰もが必須で学ぶべき内容であると考えます。

本講演では、「日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（認定分野A）歯科医療安全管理」についての紹介や認定歯科衛生士を取得したきっかけ、取得した認定を臨床や組織でどのように活かしているかなど、これから認定取得を目指されている歯科衛生士の皆様のご参考になればと思います。

歯科医療安全管理の認定歯科衛生士を多くの方が取得され、各臨床現場においてリスクマネージャーや感染対策実践者の役割を担い、医療安全管理を実践・指導ができる歯科衛生士が増えていくことを期待しています。

### 略歴

#### 学歴

1990年 大阪聖徳歯科衛生士専門学校 卒業

2010年 人間総合科学大学 卒業

#### 職歴

1990年 一般歯科診療所 勤務

1998年 広島大学歯学部附属病院 勤務

2003年 広島大学病院 勤務

### 認定・学会活動

日本歯科衛生士会 認定歯科衛生士

（障害者歯科）（研修指導者・臨床実地指導者）（歯科医療安全管理）

日本小児歯科学会 認定歯科衛生士

2021年～ 日本歯科衛生士会 認定歯科衛生士委員会 委員

日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（老年歯科分野（老年歯科医学会））について

## 藤原 千尋（ふじわら ちひろ）

国立病院機構福山医療センター



### 抄録

我が国では人生100年時代とも言われており、内閣府が発表した高齢社会白書によると高齢化率は29.1%、その後も高齢化は続き2042年ピークを迎えると推計されている。高齢化社会が加速する中、我々歯科衛生士も医療・介護・福祉など多職種や地域と連携し高齢期の歯科保健医療を担うことは職責であると考えます。日本歯科衛生士会では、特定する専門分野において高度な業務実践の知識・技能の取得を目的とした認定制度を設けている。認定分野B老年歯科においては、高齢化社会における歯科衛生士としての職責を果たし、かつ社会や他職種からの期待に応えられる歯科衛生士を目指し取得に至った。自身が勤務する急性期病院においても手術および入院患者は高齢化し多疾患併存している患者も多く、より幅広い知識が必要である。同様に今後、地域の一般歯科診療所のみならず在宅訪問歯科診療、介護施設など歯科衛生士の活躍の場が拡大されるとともに老年歯科分野の認定歯科衛生士の拡充は喫緊の課題である。本フォーラムでは、自身の認定取得までの過程および今後の課題についてもお話ししたい。ご視聴いただく皆様にとって歯科衛生士のステップアップの一助となれば幸いです。

### 略歴

#### 学歴

2003年 福山歯科衛生士学校卒業

#### 職歴

2003年 一般歯科医院入職

2005年 フリーランス歯科衛生士

2012年 国立病院機構福山医療センター入職

2018年 主任歯科衛生士就任

現在に至る

#### その他

一般社団法人 広島県歯科衛生士会 副会長

福山歯科衛生士学校 非常勤講師

#### 【資格・認定】

日本歯科衛生士会認定歯科衛生士

認定分野A在宅療養指導・口腔機能管理

認定分野B老年歯科

認定分野C研修指導者・臨地実習指導者



## 野口 有紀（のぐち ゆき）

静岡県立大学短期大学部歯科衛生学科



### 抄録

日本口腔衛生学会の認定歯科衛生士専門審査制度の目的は、地域歯科保健及び口腔保健管理に関する専門的知識と技能及び経験を有する歯科衛生士を育成し、口腔保健に関連する保健医療福祉の水準の向上と普及発展と国民の健康と福祉の増進に寄与することになります。2012年4月1日より認定歯科衛生士専門審査制度が開始されました。日本歯科衛生士会では、歯科医療の特定の専門分野において高度な知識・技術を必要とする分野で、かつ、関連する専門学会等との連携により特定する分野を認定分野Bと位置付けています。この認定分野Bでは、審査機関である日本口腔衛生学会が審査し、認定機関の日本歯科衛生士会に推薦をし、日本歯科衛生士会の認定審査会にて認定を受け、認定歯科衛生士を取得することができます。

審査機関が口腔衛生学会である認定歯科衛生士を取得することによって、歯科衛生学と関連の深い口腔衛生学との連携により、歯科衛生士としての専門性が強く担保されます。高水準の歯科衛生の実践を行うことができ、歯科衛生業務の質の向上が図られます。これらより、日本口腔衛生学会の認定歯科衛生士専門審査制度の目的を達成することができます。

私自身の経験をもとに、認定歯科衛生士 口腔保健管理（日本口腔衛生学会）取得のためのステップおよびメリット・デメリットについてお話をさせていただく予定です。

### 略歴

#### 学歴

1988年 浜松歯科衛生士専門学校卒業

#### 職歴

1998年 浜松歯科衛生士専門学校専任教員 教務主任

2008年 東北大学大学院歯学研究科修了 修士（口腔科学）

2009年 静岡歯科衛生士専門学校専任教員 学科長

2011年 埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科 講師

2012年 東北大学大学院歯学研究科修了 博士（歯学）

2014年 静岡県立大学短期大学部歯科衛生学科 准教授

2022年 静岡県立大学短期大学部歯科衛生学科 教授